

林業普及週間現地情報(8/16～8/20)

森林管理課

名護市苗木生産指導

8月17日(火)

名護市が運営している樹苗園で、担当職員と現場作業員に対し、Mスターコンテナを用いたイジュ苗木生産指導を行った。

名護市の苗木生産は、週5日間作業員二名体制で、路地栽培を中心として造林用のイジュやイスノキ、緑化木用カンヒザクラを年間4～7千本（主に造林事業用苗木）の生産となっている。

しかし、定期的に作業員の入れ替えがある中で、苗木生産技術が十分継承されず、安定的な苗木生産が課題となっていた。また北部管内での苗木生産状況は、造林事業量減少に伴い、苗木生産も縮小している状況である。そのような中で、名護市として一定程度の造林事業量を確保していくためにも安定的な苗木生産が必要となっていた。

そのような中、名護市では昨年度の北部林業研究会の森林資源研究センターにおける育苗研修を受け、苗木の安定生産及び作業の省力化を目的に今年度から本格的なMスターコンテナを用いた苗木生産を開始している。

更に、老朽化で十分な利用がなされていなかった鉄骨ハウスを約1000万円程度の市単独予算を措置し、現在改修工事を行い、生産体制を強化している。改修工事は今年度10月末を目処に完了し、改修後はハウスを中心とした苗木生産により年間4万本の出荷を計画している。

今後は名護市が特に生産に力を入れているイジュやカンヒザクラ以外にも、これまで育苗経験が少ないクスノキや早生樹等の育苗方法についても情報提供及び指導を行い、名護市が生産強化出来るように支援していきたい。



写真-1 指導の様子

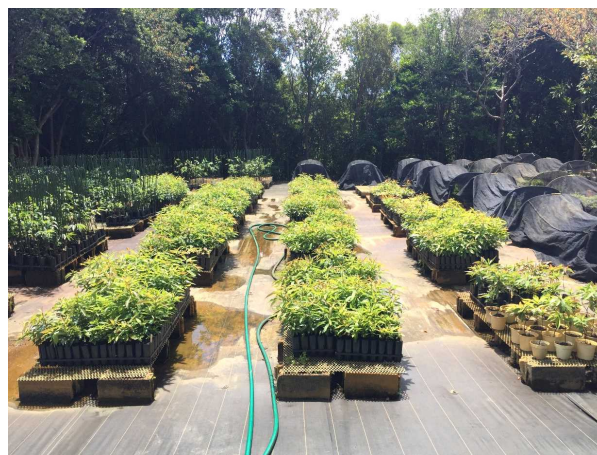


写真-2 苗木の生産状況

(路地からMスターコンテナに移植した苗木)

(報告者：北部農林水産振興センター 今田・玉城・森田)